

「なごや新交通戦略推進プラン」成果目標（平成23年度末）

目 標	基本方針	成果目標				
		成果指標	当初値	現状値	数値目標	
			2010 年度	2011 年度	2015 年度	2020 年度
安心・安全で便利な交通	誰もが利用しやすい交通システムの実現	地下鉄の可動式ホーム柵の設置駅数（乗換駅は路線別に計上）	11駅 (10年度)	23駅 (11年度)	45駅	79駅
		公共交通機関を便利で利用しやすいと思う人の割合	63%	65%	70%	80%
	安全を確保した交通環境の形成	歩行者と自転車の通行空間が分離されている道路の延長（累計）	61km (09年度)	67km (11年度)	85km	110km
		徒歩や自転車などで移動するときに安心・安全だと思う人の割合	32%	28%	45%	55%
環境にやさしい交通	低炭素型交通体系の実現	市内の鉄道及び市バス1日あたり乗車人員合計	227万人 (09年度)	229万人 (10年度)	234万人	239万人
		移動手段を自家用車から公共交通機関や自転車に変えた、変えても良いと思う人の割合	67%	69%	75%	80%
	交通エコライフの推進	市内主要地点1日（平日）あたり自動車交通量の合計（45地点双方向）	147万台 (09年)	142万台 (10年)※	134万台	127万台
		環境にやさしい行動を意識して移動する人の割合	55%	60%	65%	75%
まちの賑わいを支える交通	歩いて楽しいまちの創出	都心部の歩行者通行量（名古屋駅、伏見、栄、上前津付近の6地点合計）	54,602人 (09年度)	53,892人 (11年度)	61,000人	63,000人
		まちを歩いて楽しいと感じる人の割合	47%	47%	60%	70%
	まちの活力を支える交通環境の形成	都心部の幹線道路について複数ブロックを含む車線減を伴った道路空間再配分の実施	—	—	—	1路線以上
		都心部を歩いている活気があり賑わっていると感じる人の割合	56%	55%	65%	75%

※2010年より交通量測定地点数が変更されたため、増減率を加味した補正台数としています。

次回の市民アンケートによる指標値の公表は、中間見直し年次(2015年度)の前年度(2014年度)に実施を予定しています。

「みちまちづくり」パッケージ推進プログラム（平成23年度実施状況）

（１）全市的「みちまちづくり」パッケージ推進プログラム

推進プランの具体化		
	実行計画の策定・推進	“みちまちづくり”を具体的に推進するための計画策定に向け、検討調査や社会実験等を実施するとともに、有識者や関係事業者団体で構成する協議会を設置し、調査・審議を実施しました。
交通基盤整備・拡充		
	都市計画道路整備	幹線道路の整備率 89.9%（平成23年度末） （名古屋事業） 事業中路線…25路線 「都市計画道路整備プログラム」対象路線…6路線着手 道路と鉄道の立体交差化 事業中か所数…3か所 ・小幡架道橋（名鉄瀬戸線） ・長須賀架道橋（近鉄名古屋線） ・御田人道橋（御田・神宮前1号踏切）
	道路アセットマネジメント	施設ごとに管理水準や維持補修方法を設定し、アセットマネジメント手法を用いた計画的な点検に基づく効率的な維持管理を実施しました。
	市営交通事業	市バス・地下鉄の一体的なサービスを安定的に提供し、市民の移動手段を確保する役割を果たしていくため、市営交通事業経営健全化計画（計画期間：平成21年度から28年度）の諸施策に取り組みました。 ・収支の決算額（カッコ内は計画値） 〔市バス事業〕経常収支：12億円（10億円） 資金不足額：△49億円（△77億円）、資金不足比率：26.1%（39.6%） 〔地下鉄事業〕経常収支：18億円（2億円） 実質資金不足額：△2,524億円（△2,537億円）
誰もが利用しやすい交通システムの実現		
	地域公共交通計画（LTP）	平成24年度以降に調査・検討を予定しています。
	地下鉄駅のバリアフリー対策	桜通線の全駅において、可動式ホーム柵の設置が完了しました。
	バリアフリー化の推進	・福祉のまちづくり推進委員会において、福祉都市環境整備の進捗状況の報告及び意見聴取を行いました。 また、福祉都市環境整備指針の改訂に向けた内部検討を行いました。 ・昭和区の児童福祉センター周辺をユニバーサルゾーンと設定し、整備を進めました。
	ITSの推進	愛知県ITS推進協議会等へ参加し、ITS技術の情報収集を行いました。
安全を確保した交通環境の形成		
	交通安全教育・啓発	交通安全共済積立基金の残余金を活用した「交通安全対策特別事業」（平成22年度から平成24年度までの3カ年度）で、自転車・歩行者シミュレータやスタントマンを活用した交通安全教室等、各種の参加体験型交通安全教室を積極的に推進しました。 事故情勢に応じ、効果的な広報啓発を実施し、高齢者や自転車利用者等の交通安全意識の高揚を図りました。
	緊急輸送路確保	・老朽化橋りょうの改築 改築計画の橋りょうについては、5橋が事業中（運河橋、篠原橋、中川橋、三階橋、夫婦橋） ・既存橋りょうの耐震補強 昭和55年道路橋示方書より前の示方書を適用した多径間の橋りょうについて、落橋防止装置の設置や兵庫県南部地震による被災事例の多かった形式の橋脚のみの耐震補強が完了しました。（34橋） また、同じ条件に該当する跨線橋（3橋）についても耐震補強が完了しました。 平成23年度は都市計画道路上の橋りょうについて耐震補強を実施しました。
低炭素型交通体系の実現		
	ICカード乗車券	全国の交通系ICカードとの相互利用サービスの実施に向けた整備を行いました。
	共通運賃制度	平成24年度以降に調査・研究を予定しています。
交通エコライフの推進		
	モビリティマネジメント	より広く市民にMM（モビリティマネジメント）を体験してもらうため、平成20年度末にMM支援サイト「みんなでトクする日常の移動を考えるプロジェクト」を開設し、MMの普及啓発を継続的にを行っています。 交通エコライフを推進するために、モビリティ・マネジメントとしてウェブサイトやリーフレットなどによる情報発信を行うとともに、地下鉄桜通線の野並～徳重間の開通により交通環境が大きく変化した緑区東部地域において、居住者アンケートなどを実施しました。
	カーフリー宣言	平成22年度に引き続きEXPOエコマネーセンターにて常時実施するとともに、環境デーなごや、中川運河ふれあい祭り及びITSワールド2011においてカーフリー宣言の参加者を募集しました。
	公共交通エコポイント	環境月間、環境デーなごや、駅ちかウォーキング2011及びITSワールド2011において、公共交通エコポイントの臨時リーダーを設置し、公共交通エコポイントの普及啓発にあわせて、ポイントの発行を実施しました。
	エコ交通マップ	市民参加のワークショップを開催し、守山区大森地区と栄・大須地区の計2地区においてエコ交通マップを作成しました。
	エコカー・エコドライブ	・環境にやさしい自動車利用の啓発 燃費計付き自動車を使った体験型講習会やエコドライブセミナー、タイヤ空気圧キャンペーンを実施するとともに、環境イベントやエコドライブキャンペーンなどの場で、市民にエコドライブ実践を呼びかけました。 ・エコドライブマイスター事業 事業所におけるエコドライブの実践・普及に、経営者・ドライバー・管理者が一体となって取り組めるように、事業所内で積極的に実践の呼びかけをする「エコドライブマイスター」を認定し、エコドライブ推進の旗振り役となる人材を育成しました。 また、エコドライブマイスターを対象に活動支援のためのステップアップセミナーを開催しました。
	カーシェアリング	交通エコライフ推進の一環として、カーシェアリングの普及・利用促進のための啓発活動を行いました。
歩いて楽しいまちの創出		
	緑陰街路	4路線の一部の区間において、試行実施しました。

(2) 都心部「みちまちづくり」パッケージ推進プログラム

安全を確保した交通環境の形成	
歩行空間の拡充	市道矢田町第302号線始め63路線において歩道整備を実施しました。 整備延長9.6km
自転車利用環境整備	県道津島七宝名古屋線始め6路線において自転車走行空間の整備を実施しました。 整備道路延長約3km
歩いて楽しいまちの創出	
オープンカフェ	久屋大通において通年で実施されており、12箇所において、約9,000人の利用者がありました。
コミュニティサイクル	平成22年度に実施した社会実験の結果をもとに、本市の実情に合うと考えられる低コストで持続可能な「名古屋市版コミュニティサイクルの事業モデル」を検討しました。 平成23年度は、この事業モデルに基づき、コミュニティサイクルを本格実施した場合における、利用意向や事業効果を分析する調査を実施しました。
ちょい乗りバス	交通まちづくりプランの策定に向けた調査・検討として、みちまちウィーク2011において、栄～大須地区を巡回するちょい乗りバス社会実験を実施しました。
LRT、BRT	他都市へのヒアリングを行い、今後の課題について整理をしました。
まちの活力を支える交通環境の形成	
総合的な駐車マネジメント	“みちまちづくり”を具体的に推進するための計画策定業務の中で、新たな駐車施策の展開についても検討を実施しました。
トランジットモール	平成24年度以降、“みちまちづくり”（道路空間再配分）対象候補路線の選定と合わせて、本市で実施する場合の課題や効果等を検討する予定です。
荷捌きスペース	附置義務制度に基づき、一定規模以上の建物の建築主に対して、適切な荷さばき駐車場の整備を指導しています。 新たな取り組みに関しては、平成24年度以降、“みちまちづくり”を具体的に推進するための計画策定業務の中で、考え方や確保方策を検討する予定です。
課金制度	平成24年度以降に調査・研究を予定しています。

(3) 拠点駅そば「みちまちづくり」パッケージ推進プログラム

安全を確保した交通環境の形成	
歩行空間の拡充（再掲）	市道矢田町第302号線始め63路線において歩道整備を実施しました。 整備延長9.6km
自転車利用環境整備（再掲）	県道津島七宝名古屋線始め6路線において自転車走行空間の整備を実施しました。 整備道路延長約3km
低炭素型交通体系の実現	
駅前広場の整備	全23か所中20か所は供用中であり、残り3か所については、都市開発等に合わせて順次整備を推進します。 （平成23年度は未実施）
パーク＆ライドの推進	認定・補助金交付等の支援制度により民間駐車場を有効活用しました。 ウェブサイトや情報誌による認定パークアンドライド駐車場の広報を行いました。
自転車利用環境整備（再掲）	有料自転車駐車場の整備を2駅（亀島駅、鶴舞駅）実施しました。 （亀島駅の有料化 平成23年10月1日）
歩いて楽しいまちの創出	
LRT、BRT（再掲）	他都市へのヒアリングを行い、今後の課題について整理をしました。

(4) 生活圏「みちまちづくり」パッケージ推進プログラム

誰もが利用しやすい交通システムの実現	
柔軟な交通システム	本市の交通体系の現状について整理し、生活交通に関する課題を挙げるとともに、他都市の事例について調査を行いました。
交通バウチャー	平成24年度以降に調査・研究を予定しています。
安全を確保した交通環境の形成	
歩行空間の拡充（再掲）	コミュニティ道路について昭和区始め4区 5路線を整備しました。（整備道路延長731m）
自転車利用環境整備（再掲）	有料自転車駐車場の整備を2駅（亀島駅、鶴舞駅）実施しました。 （亀島駅の有料化 平成23年10月1日）